



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 2 月 8 日 (土)

発行 館長 加藤 智一

鮭様

「羽州の狐」こと清和源氏足利氏系斯波氏流、最上義光。インターネット上では、親しみをこめて「鮭様」と呼ばれているそうで……。

歴史じっくり紀行公式ブログより



フリーペーパーgatta! 3月号でも紹介されておりますが、戦国時代は、献上品としてよく用いられていたという鮭。出羽山形藩の初代藩主、最上義光については、鮭を送られたことに

対する礼状が多く残されている他、塩引鮭を贈ることもあったことからか「鮭好き」のイメージがあるらしく、ネット上では「鮭様」と呼ばれております。「狐」よりはずっと親しみやすい言われ方かなと思います（そのくらいでないとい今後大河の話はこないでしょ）。

義光には可愛い妹がおりました。名前は義（姫）。伊達家に嫁ぎました。この義姫が生んだのが伊達政宗です。義光にとって正宗は、甥っ子に当たるわけです。が、時には敵と味方に分かれて争うこともあり、そうでない時でも、笑って握手をしながらもう片手には刃を潜ませているような関係でした。そんな関係ではありましたが、義光と政宗は手紙のやり取りもしていますし、義光は鮭を贈ったりしていま

す。義光の大好物は鮭。自分で食べるだけでなく、家臣にも甥っ子（正宗）にも、徳川家康にも贈っています。中には「鮭」が付く家臣もいました。鮭延秀綱です。ある時、鮭延の家臣が義光の侍女と密かに恋仲になってしまいました。これに激怒した義光は2人に死罪を申し付けます。しかし鮭延の取り成しにより渋々それを引っ込めたという逸話が残っています。後に、この鮭延の家臣は鮭延のために戦で戦死し、侍女はその後を追って自害してしまったのだそうですが、それを聞いた義光は男泣きし、2人を手厚く弔ったとか。残酷なイメージのある義光ですが、実は人情味のある人だったということです。

地球全体の CO₂ 濃度 14 年間で最大

JAXA 国立環境研究所 環境省

(2025. 2. 7(金)日刊工業新聞より)

宇宙航空研究開発機構(JAXA)や国立環境研究所、環境省は 6 日、2023~2024 年にかけての地球全体の二酸化炭素濃度が、過去 14 年間で最大だったと発表しました。

温室効果ガス(GHG)を観測する衛星「いぶき」のデータを解析したところ、二酸化炭素の地球全体の平均値である全大気平均濃度の年増加量を比べると、2023~2024 年が 2011 年以降で最大となる年間 3.5ppm となることが分かりました。「いぶき」が観測した二酸化炭素の全大気平均濃度は、2010 年は 388ppm でしたが、2024 年には 421ppm をこえていました。年増加量は、過去 14 年間の平均が 2.4ppm でしたが、2024 年には年 3.5ppm まで増えたことが分かりました。

エルニーニョ現象による高温や干ばつ、森林火災が原因として考えられています。

本当にそれだけでしょうか。人間の活動は関与していないのか？

